

# 壮年会だより

平成24年3月度 中原寺仏教壮年会だより Vol.5



## 1月の行事報告 January

### ◆1月29日(日)【平成24年度中原寺仏教壮年会総会・新年会】



午後2時半より正信偈のお勤めに続き、水野氏のお手前で恒例のお供茶式が行われました。

引き続き、平成24年度中原寺仏教壮年会、年次総会は20名が参加し、今回は天真寺の副住職と壮年会会長が見学に来られました。事業報告、会計報告、監査報告が有り了承され、会長を臨時に1年間努めて頂いた副住職から新たに石井保氏が選任、新会長による24年度の目標と方針「門徒の自覚を持って時代に即した伝道を心がけ、

行事・勉強会には積極的に参加し大いに親しもう。」が示されました。又、新年度の事業計画、予算が承認されました。その後、庫裡に移り天真寺のお二人を交え坊守さんの作っていただいた熱々のおでんや旨いお酒に話も弾み暖かい新年会になりました。合掌



## 2月の行事報告 February

### ◆2月18日(土)・19日(日) 東京教区仏教壮年会連盟結成記念日研修会

千葉勝浦(ホテル三日月)にて開催。今回、千葉組主催の幹事として、当中原寺壮年会会長が東京教区仏教壮年会結成記念研修会の進行を任されている。当寺か

らは、かつてない10人という会員が参加し面目を保った。

2日間にわたる研修会の感話は、参加した全員から原稿をいただき、感話コーナーでご紹介いたします。

## 3月の行事予定 March

### ◆3月20日(火) 春季彼岸会法要(併催)・門信徒総永代経法要・宿縁廟法要 午後1時

## 会長就任挨拶

石井保



平成24年1月29日(日)に中原寺仏教壮年会定期総会におきまして第10代壮年会会長に、選任されました石井です。

諸先輩が沢山おられる中、また今年は浄土真宗門徒として大事な親鸞聖人750回大遠忌法要並びに、副住職(前会長)の住職継職慶讃法要が努められる年に選出されましたことは、光栄というより、大変重責を感じております。

それでは、簡単に自分自身の中原寺とのかかわりを

紹介したいと思います。

自分が小学校5年生の時に祖母が他界しました、その時にご縁をいただいたのが中原寺との出会いでした。

ご住職が確か当時大学に通学されているところで、詰襟の学生服姿が今でも印象に残っておりました。

今年で中原寺とのご縁も半世紀以上になろうかと思いますが、これからも中原寺を微力ながらお手伝いが出来ればと思っております。また、壮年会長としても皆様方の融和に努めてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 【中原寺掲示板のことば】より

人が執着の心をおこすとき、  
迷いの生活が始まる (2012年1月)

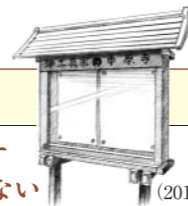
補足：私たちのこころがもつ汚れである「煩惱」は以下の3つ(「三毒」とされています。①好きなものへ執着する「貪り」、②嫌いなものへの嫌悪である「怒り」、③誤解や正しい道を知らない「愚かさ」。

【参考】  
「浄土真宗必携、み教えと歩む」P149、本願寺出版社(2011年)

仏とは、はたらきをあらわす  
動詞であって、名詞ではない (2012年2月)

補足：阿弥陀如来様は、私たちが「お助けください」と頼んでから来て下さる仏さまではなく、「この阿弥陀さまにまかせなさい、必ずあなたを助けますよ」と先回りして下さる仏さまです。

【参考】  
「浄土真宗必携、み教えと歩む」P72、本願寺出版社(2011年)



## 編集後記(平成24年・壮年会3月会報)

お詫び：誌面スペースの関係上、研修体験記の一部を割愛させて頂きました。

この「壮年会だより」は壮年会員を中心として、中原寺門信徒の方々の交流の一助とするために編集・発行しています。本号は、石井保 新壮年会会長を始め多くの会員にご執筆頂きお蔭で充実した誌面となりました。引続き次号も壮年会の方のご寄稿を予定しています。なお「会員の声」の原稿は常時募集していますので、ふるってご投稿くださるようよろしくお願いいたします。(高木史人)

## 12月の行事報告 December

### ◆平成23年12月18日(日) 役員会・理事会 午後1時半、壮年会法座 午後3時、末懇親会 午後6時

副住職先導による正信偈読誦の後、来年の1月29日開催予定の壮年会総会付議予定の案件について審議した。

・現在の壮年会の役員・理事体制は、今年1月の総会にて承認された新体制で原則2年の任期になっているが、来年は現会長の副住職が、新住職を継職する予定で準備が進んでいるとのことです。そうなれば、壮年会会長との兼務は無理であります。よって現在の副会長の中から会長を選ぶとのことで話を進めてきたが、石井さんをお願いすることで本人の内諾を得た模様。

・新年度の事業計画案と予算額について今年の予算進捗状況を見て逐次審議した。

・役員・理事は、それぞれ役割分担がグループ毎に決まっているが、1人の人にグループを纏めるチーフ役

を果たしてもらおう事にする。人選を行い決定。

・来年2月18・19日、千葉勝浦で開催予定の東京教区第32回記念研修会の幹事寺として、その進行を任されている。当寺から相当数の人員の派遣が要請されてくる模様。10数人の人員の協力をお願いしたいとの事。

・本日、壮年会、婦人会との合同懇親会を予定しており担当役員・理事は準備のため早めに現地に赴いた。

16時より壮年会法座：住職による今年最後の法話

18時より恒例の年末懇親会は松戸「よしの」にて、住職の挨拶に続き平田氏による乾杯のご発声で平成23年度年末懇親会が24名参加で開催された。今年の活動を振り返りながら大いに語り合い次第に歌あり、ダンスあり、お酒ありで松戸の夜は深けてゆきました。



## 1月の行事報告 January

### ◆平成24年1月1日(日)【元旦修正会・ご流盃の儀】午前8時

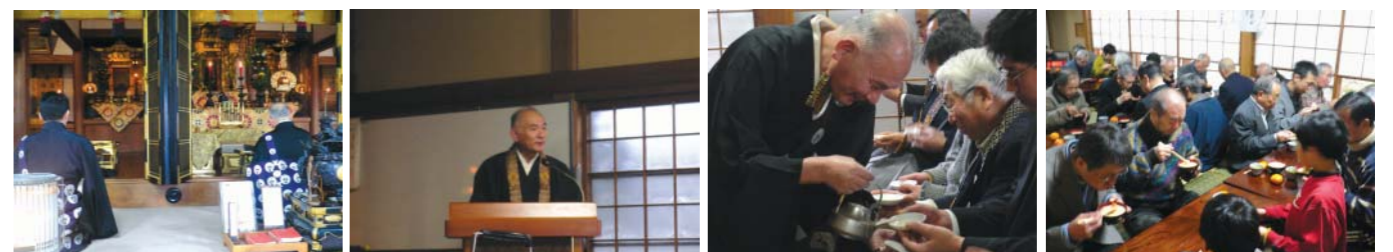
今年もよく晴れた元旦の朝、参詣者が晴れやかな笑顔で山門をくぐり石段を登ってお参りに来られました。

8時より境内に鳴り響く行事鐘の中、参詣者が心新たに「正信偈」をご唱和しました。

住職は年頭法話で、昨年東日本大震災にふれられ生命の不確かさについて深く考える年でした。その事

から生命の字の語源についてお話になりました。又、親鸞聖人750大遠忌法要と住職継職慶讃法要が努められるので、皆様のご支援をお願いされました。

引続き、住職、副住職による参詣者の盃にご流盃注がれ、門徒総代の音頭で新年のお祝をしました。その後、客殿と門法会館において恒例のの京風雑煮を頂きました。



## 【第32回 東京教区仏教壮年会連盟結成記念日研修会 参加者感想】

初めて教区の一泊研修会に参加させていただきました。当日の明け方まで降っていた雪の影響が心配されましたが、無事予定通りに勝浦三日月ホテルに到着。会場には一都八県より総勢300人を越える参加者が集まり、教区仏壮における熱意の高まりを感じられました。今回のご講師である藤島秀天師（富山県勝福寺住職）の記念法話は、熱い語り口調で海外における布教の経験などを交えながら、真宗念仏のおこころをお伝えいただきました。また、懇親会では他寺からの参加者とも交流を深めながら、美味しいお料理とお酒をいただきました。来年は箱根湯元で開催予定ですので、一人でも多くのご参加を期待しています。

副住職 記

平成24年2月18日～19日の2日間にわたり、勝浦「三日月ホテル」で開催され、今回の研修会の幹事が千葉組主催ということで、私自身この度の研修会で実行委員を努めさせて頂いた関係上、2日間とも、連絡等の係りに携わるため、全体的内容の把握ができませんでしたが、千葉組担当幹事としては、ほぼ成功裏に終了したのではないかと思います。これからも仏教壮年会がさらなる発展を願いながらの報告と致します。

壮年会会長 石井保 記

講師は富山教区、勝福寺の藤島秀天先生は本願寺の特派布教使として海外へ数多く行っているようで、それらの体験談を語られた。

アルゼンチンのプエノスアイレスでは世界屈指の交響楽団でチェロの第一奏者である男性との対談で何故、真宗門徒になったのかとの質問に彼は世界の宗教の中で人間を選んだもので無いのは、親鸞聖人が生き抜かれた真宗以外に無いと、はっきり答えたと言う事です。何か自分もうれしく思えたのです。又、今度の太平洋戦争の終戦直後、アメリカで昨日まで敵対国であるはずの日本人の犬養道子さんが多勢のアメリカ市民のボランティアによって長きにわたって命を助けられたという美談に胸がジーンときたのです。

ボランティアでは、あの女優のオードリー・ヘップバーンが難民キャンプの人達と同じ裸足で木綿のシャツ一枚で顔中ハエがたかっている赤ん坊を我が子の様に抱きかかえている同じ目線でのあの姿、あれこそが真実のボランティアであると云われた。宗教心の無いおしつけのボランティアでは心は通じないと、受ける側の人間は敏感に相手を見抜いているとも云われた、それはそうだろうなと自分でも納得したことです。その他、歎異抄の中から正義について仏教では積尊の始めから一貫して正義は人間（凡夫）の持物ではないという事です。人間が正義を握るとその手を武器にして相手を打ちのめすと云います。全くその通りだと思う。他にも夜と霧のビクトル・フランクルの言葉など先生が次から次と興味深く、心を魅きつける上手なセンスある法話に心から感動しました。是非又のご縁を期待したいと思います。南無阿弥陀仏 合掌

奈良徳弥 記

壮年会入会後初めて教区研修会に参加させていただきました。当初は戸惑いも在りましたが、出逢った多くの門徒の方々と共に、親鸞聖人との縁を戴いた事に感謝。藤島先生の法話中での話でサンパウロのチェロ奏者カルロスが門徒になった理由「人間を選んだ物でないのは、親鸞聖人が生きぬかれた真宗以外に無い」と答えた宗教観や人生観と行動力は、今の日本人全体や子供を含めた教育や社会環境と比較して、恥ずかしく成り反省させられました。私にとっては親鸞聖人が身近に感じられた貴重な二日間でした。

森末次 記

開会冒頭の「讃仏偈」のお勤め、「仏教壮年の歌」、また「真宗宗歌」、翌日の晨朝修行「正信偈」と締めくくりの「恩徳讃」、三百余名の声が響きました。このエネルギーこそが親鸞聖人の「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」の原動力になるのだと痛感した二日間でした。

河合功 記

研修会に参加させて頂き有難う御座いました。2月18～19日の日程で勝浦のホテル三日月で開催されました。法話は富山教区の勝福寺ご住職藤島秀天師、NHK金曜スペシャルの番組の「(幸せの青い鳥・ブッポウソウ)」は感動的な番組の事を法話されました。ブッポウソウは美しい鳥で、4キロも飛来して広島県三次市へ、生まれながらの身体に方向指示器をに導かれ生きるが、人間は方向指示器になり得ないものを方向指示器にして人生を誤る、学歴・地位・権力・財産等、での誤り・・・「阿弥陀如来は私に方向指示器となってあげようとお念仏を与えて下さった」等々の法話でありました。有難う御座いました。 合掌

村田太喜夫 記

今回、仏壮連盟記念日研修会に11年ぶりに参加させて頂きました。2日間に渡る藤島秀天師の記念法話は、実に篤く、親鸞聖人の教えの確かさと、布教使として訪れたブラジルでの様子など、大変興味深いお話でした。そのあとは、芋を洗うような混雑した大浴場で、話題になった黄金風呂にも入り、共に呑み、語り合い楽しく有意義な2日間でした。

福島道宏 記

この度の第32回東京教区仏壮連盟結成記念日研修会は千葉組が担当組でしたが、313名の多数の御同朋が参加され、大変盛大な研修会でした。中原寺からは副住職様を含め10名が参加させて頂きました。当日、我が壮年会の石井会長は研修会の運営役も担当し、活躍されておられ大変お疲れだったと存じます。研修会が無事開催出来たのは、この様な裏方を担当される方々が居るお陰だと深く感謝申し上げたく存じます。この度の研修会では、仏壮の活動報告で中原寺他2箇寺の活動内容が紹介され、日頃の活動を皆様にお知らせ出来たことは大変嬉しく思いました。これからも他のお寺の模範となる様な活動が出来れば良いと存じます。

多田羅健二 記

記念法話の講師、藤島秀天師の法話は、真宗では報恩講がもっとも大事な行事で、親鸞聖人ご命日にあたってその恩徳を讃える最も大切な法会です。人間は凡夫です、と見抜いて下さったのは弥陀仏だけです。人間として命を全うする道は、これしかないかと本願念仏なのです。阿弥陀如来様は、あなたのことよ、と届いている念仏です。肝心なのは、自分のことと分かっていない事だと思います。仏法の学びは、尽きることの無い、生涯教育だと思ひ、また心を新たに歩み続けたいと思ひます。

仏教壮年会活動報告 報告者：天真寺 西原龍哉師 千葉組中原寺、西方寺、天真寺の活動報告がされました。門信徒ファミリーパーティー、散策、園芸（花、野菜）、グランドゴルフと3カ寺では色々な行事をおこなっていて、良かったと思ひます。

山田敏彦 記

中原寺は、奈良さん、福島さん、河合さん、森さん、村田さん、石井さん（会長）、多々羅さん、山田さん、俊斉副住職と私の10名で2月18、19日と第32回東京教区仏教壮年会連盟結成記念研修会(於、勝浦三日月温泉)に参加してまいりました。1都8県68ヶ寺313名での会でした。出発の朝は雪もやみ薄氷がはった中、福島さんと村田さんの2台の車に分乗して、現地で待つ石井会長と合流しました。まだ空気は冷たいですが快晴で景色も素晴らしく、勝浦の名旅館三日月温泉では間近に迫る雛祭りに備えて雛壇が飾られ、改めて日本の伝統文化と名所を巡り、心が豊かになりました。

1時半に開会され、山中東京教区連盟理事から新興宗教に若い世代が集まる中、壮年会はどうみ教えを広げてきたか振り返りましょうと挨拶がありました。その後研修会のメインイベントでは、富山教区婦負西組勝福寺の藤島秀天住職より記念法話をいただきました。釈迦は4,000名を集め仏教を説いたが皆初めからは分からない、自身は釈迦ではないから今皆さんに分かるような話は出来ない、何か心に残ってくれば良い、と言うお言葉で始まりましたが、熱意のこもった法話で色々と事例を引用され惹き付けられました。中でも師が特派布教師でブラジルを訪問時に、熱心な聴聞者のカルロス氏に何故真宗門徒になったかの問いに、『人間を選んだ宗教は、人間が救われない、人間を選んだもので無いのは、親鸞聖人が生き抜かれた真宗以外に無い。』とほんとうに浄土真宗が分かった人に出会ったと述べておられたことが印象的でした。

また石川県願上寺で、師の（法話の）声が聞こえると寺のおばあさんが『先生、如来様の声が聞こえてくると我が身の(凡夫の)ありのままがあらわになってくる、頭が下がる。』と聞かされ、そんなに嬉しいことはなかったと述べられました。（因みに石川県は1,000ヶ寺の中で浄土真宗は99ヶ寺のみ）そしてもうひとつは『正義は人間の持ち物ではない。』という事でかの有名なハーバード大マイケル・サンデル教授に東大生の講義で戦争終結のため原爆投下せざるを得なかった事を言われ、東大生が反論できず更に納得顔で頷いたことに大層かっがりしたという事を引用され、さもありませんと納得できました。また真のボランティア精神を持ったオードリー・ヘップバーンと日本では犬養道子さんの自分を顧みず尽くすことについても感銘を受けました。法話を通して、本当に大事な事を考えさせられる貴重な研修会となり心から感謝をいたすものでありました。

帰路は、千倉の潮風公園で昼食を戴き、干物や花をみやげに楽しい1泊旅行となりました。最後に、藤島住職と同じように中原寺でもいつも事例を出されて分かり易く心を打つ法話、お聴聞を戴いており、今回の研修会ですんなり勉強となったのも中原寺と先輩諸氏のお陰と改めて感謝したい旅行となりました。合掌

野上茂樹 記

